

学力向上推進計画

南城市立百名小学校

1 目標

自ら学ぶ意欲をもち、心豊かでたくましい児童の育成

2 基本方針

- (1) 県の「学校教育における指導の努力点」として掲げている「確かな学力」の向上を踏まえ、「わかる授業」の構築による「確かな学力」の向上に焦点をあてた取組を推進する。
- (2) 県「自立した学習者育成プロジェクト」に基づき、本校の特色を生かした計画を立てる。
- (3) 学力向上マネジメントによる「目標管理型評価システム」を構築し、学力向上に係る学校課題の解決を図る。
- (4) 学力向上の総括目標・推進目標の達成に向けて、児童の実態を十分把握した上で具体的な取組を推進する。
- (5) 児童一人一人の「確かな学力」の向上を図るため、日常的な共通実践事項を一層充実させるとともに、校内研修を中心とした教師の指導力の向上・授業改善の取組を推進する。
- (6) 学校支援地域本部事業や幼小中との連携を通して地域教育資源を活用した授業の工夫改善に取り組む。

3 取組構想

総括目標 : 幼児児童生徒一人一人に「生きる力」の基盤となる「新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力を育む」

推進期間 : 令和7年度～令和□年度



成果指標 沖縄県到達度調査を指標とし検証する。

- (1) 全教科において平均正答率を県水準まで向上
- (2) 平均正答率30%未満の児童の割合及び無解答率の減少
- (3) 児童生徒質問紙における「学び・育ちの実感」等に関連する項目の数値の向上
- (4) 学校質問紙の「質的授業改善」等に関連する事項の数値の向上



〔実態〕

- ◎全国学力・学習状況調査において国語で全国の平均正答率を上回った。
- ◎無解答率が高く、粘り強く取り組むことに課題が見られる。



推進目標

- ①R7年度県学力到達度調査において県平均を上回る。
- ②R7年度全国学力学習状況調査においても全国平均を上回る。

〔課題〕

- ・自分の考えを思考・判断表現する力が不十分。
- ・算数の基礎基本は定着しているが、算数の記述題において、既習事項が活かされていない。



学びの質を高める5つの方策

方策1：日常化する 【質的授業改善】		方策2：そろえる 【組織的共通理解】	
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて日々の質的授業改善の取組を日常化する。		アセスメントによる実態認識・課題認識をそろえる。	
方策3:支える 【発達の支援】	方策4:見通す 【学校組織マネジメント】	方策5:つなぐ 【学校連携・地域連携】	
支持的風土のある学校・学級経営を通して発達の支援を充実させる。	学校組織マネジメントの機能を高め、カリキュラム・マネジメントの充実を図る。	「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた学校連携・地域連携を推進する。	

活動状況（R-P-D-C-A）

月	活 動 内 容	主となる担当者
12月	P：本校の課題と対応策についての確認・学力向上推進計画の提案	学推主任
1月	C：県学力到達度調査の実施・採点・分析 C：地区・市への実践報告書作成及び提出	学推主任・学年主任 学推主任
2月	D&C：南城市「教育の日」学校公開日	全校
3月	※学力向上強化月間の取組計画 D：課題となる単元や内容への対応策検討	学推主任 学推主任
4月	D：授業の工夫改善・補習指導の実施（2年～6年） A：本年度の具体的取組の見直し・改善策の検討 C：県学力到達度調査結果の総括 D：各学年の学習内容定着に向けた補習指導（2～6年）	学推主任・学年主任 各学年 全教諭
5月	P：「自立した学習者育成プロジェクト」「学力向上年間計画」「わかる授業サポートガイド」「県学力向上 Web システム活用」の共通確認 P：令和7年度学力向上推進計画の確認 P：基本的な学習態度の指導についての確認（学習規律） P：学習支援ボランティア活用計画と学校支援本部への依頼 R：学級担任による児童の実態把握（生活面・学習面） D：「立腰・黙想」「家庭学習・自学自習」の継続 D：朝の百名タイム D：全国学力調査及び学びのたしかめに向けた学力強化旬間の取り組み（百名っ子タイムの活用・補習指導） C：全国学力学習状況調査の実施 C：全国学力学習状況調査の自校での採点・課題分析と対応策検討 C：県「学びのたしかめ」調査実施・採点	学推主任 学推主任・全教諭 教頭・学推主任 各学級担任 全教諭 各学級担任 学推・全教諭 6年 全教諭・学推主任 4・5年担任・学推主任
6月	A：県「学びのたしかめ」調査の結果分析・改善策の検討 D：推進計画に沿った実践（～7月）→日常的・実効性・連携地域学習ボランティア（ミントン）の依頼	4・5年担任・学推主任 全校 教頭
7月	D&C：字児童会の実施（夏休みの過ごし方） C：授業改善の評価・反省（職員学校評価の実施）	各担当 教頭・全教諭
8月	D：全国学力学習状況調査の結果分析 A：1学期の反省をもとにした取組の修正（改善） P：学力強化旬間の提案・共通理解	全教諭 全教諭・学推主任 学推担当・全教諭
9月	D：全国学力学習状況調査の課題解決を意識した授業改善	全教諭
10月	※学力向上強化旬間の取組 D：推進計画に沿った取組（～12月） →課題に応じた具体的で日常的な取組・実効性のある取組	全学年・全教諭
11月	D：県到達度調査の実施（5・6年）・採点・分析 A：本年度の取組資料の整理・保管 C：授業改善の評価・反省（職員学校評価の実施）	5・6年担任・学推主任 学推主任 教頭・全教諭
12月	P：本年度の課題を踏まえた次年度計画立案	学推主任

令和7年度 学力向上年間サイクル

南城市立百名小学校

期間	学校の計画	学校の具体的な取り組み	主な学校行事や地域行事
R7.1月～ 3月	学習ステップアップ月間【1月～3月】		卒業式 (3月)
R7.2月～ 3月	既習内容の定着に向けた補習指導を行う。	①百名っ子タイムにおいて基礎基本事項の定着を図る。(国語、算数を中心に) - 市販ドリルの活用 - eライブラリの活用 - プリントの活用 ②学力向上強化旬間の実施(2～6年) - 全教諭で学習指導にあたる。 - 既習事項で、定着率が低い単元や項目等を取り上げる。 - 全国学力・学習状況調査や到達度調査の過去問題に取り組み、実態を把握するとともに基礎学力の定着を図る。	
春休み		春休み期間中に宿題を取り組ませる ・eライブラリや市販プリント…等	
R7.4月～ 5月	学力向上強化旬間【4月】		始業式 入学式 (4月) 全国学力・学習状況調査(4月) 学びのたしかめ(4月) 個人面談 (4月)
R7.6月～ 7月	- 全国学力・学習状況調査や学びのたしかめ実施後はフリー職員が採点をし、複数教員で再確認をし、県のWEBシステムに入力する。 - 校内研修で、独自で採点した全国学力・学習状況調査の分析から課題や対応策を見いだす。	- 全職員で年間サイクルの取り組みと計画の確認をする。(年度始め) - 春休みの宿題点検 - 全国学力・学習状況調査の過去問題の実施や練習問題に取り組みさせる。 - 課題のある単元を中心に練習問題に取り組み、既習内容の定着を図る。 (2年生～5年生) - 前年度の国算の既習事項を振り返ってから(数時間程度)、本学年の学習へと移行する。	
	学習規律の徹底【5月】		平和学習 (6月)
	学習規律を整える。	(全学年) - 学習用具の準備 - 時間のけじめ - 黙想からの授業開始 - 学習姿勢(学級の掲示物) 机、イスの調整 - 各学年の実態に応じた学習プリントや学力状況調査「学びのたしかめ」の実施を通して、理解の定着を図る。	

夏休み	・全国学力・学習状況調査の調査結果公表	・結果公表後、正答率 30 % 以下の問題を取り上げ、考察や対応策を話し合い、授業改善に生かせるようにする。	個人面談 (7月)
R7. 8月～ 12月	学力向上強化旬間【11月】 ・既習内容の定着に向けた補習指導を行う。 ・学力状況調査を通して課題の把握を図る。	・全国学力・学習状況調査で得た考察も活用する。 ・各学年の実態に応じた学習プリントや学力定着度調査の実施を通して、理解の定着を図る。 ・授業改善のポイントを確認し、年間指導計画に位置づけるようにする。 ・12月段階までの県・市・本校の調査結果の比較を通して、課題の把握に努める。 (過去問と単元テスト)	宿泊学習 (9月) 修学旅行 (10月) 運動会 (11月) 到達度調査 (5・6年) (11月末)
冬休み		・冬休み期間中の宿題の提供 (個々の苦手な領域を重点的に)	
R8. 1月～	学力向上強化旬間【2月～3月】		